

授業科目の概要

▶ 基幹科目

生涯福祉総論Ⅰ 担当：山崎 順子

少子高齢社会を迎え、人々の生活環境が大きく変化する中、各世代のニーズは多様化・複雑化している。本講義では、児童期・青年期に焦点を当て、生涯発達を見据えた視点より国の施策・ニーズを捉え、課題と支援のあり方について考える。

生涯福祉総論Ⅱ 担当：六波羅 詩朗

壮年期から高齢期にかけ、深刻で、切実な課題となっている「介護」「医療」など社会福祉を政策・実体的に捉え、理解する。さらに超高齢社会における国民個々の豊かなライフステージのあり方を考え、これからの社会形態を展望する。

ソーシャルワーク論 担当：木村 真理子

ソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロ実践と研究の課題を明らかにする。方法として、実践と研究の問いを明らかにし、先行研究、実践に基づく成果を整理し、新たな実践と研究課題を見出すプロセスを学ぶ。

福祉臨床論 担当：村田 久

①育児水準の上昇による児童虐待概念の広がりをもたらす影響とその臨床的、施策的対応、②超高齢社会における制度・臨床について学際的に深く掘り下げ「福祉臨床」という観点から学ぶ。

▶ 福祉関連科目

子ども家庭福祉特論 担当：姜 恩和

昨今の子ども家庭福祉を取り巻く環境について検討しつつ、子どもが健やかに生まれ育つための妊娠期からの切れ目のない支援、子ども家庭福祉制度、サービス体系について考察する。

高齢者福祉特論 担当：鳥羽 美香

高齢者福祉の発展過程を振り返り、高齢者の生活実態について考察する。社会における高齢者観の変遷を概観し、日本と海外におけるエイジズムの実態と、社会福祉専門職におけるエイジズムの課題に関して探求する。

障害者福祉特論 担当：山崎 順子

障害者福祉は、施策、制度、支援の体系である。本講義では、史的展開を押さえ、実態を捉え、障害者福祉の今日的意義、課題を理解し今後について展望する。

精神保健福祉特論 担当：井上 牧子

日本の精神医療保健福祉の特徴について理解を深め、その上で世界的潮流や動向との比較検討を行い、改めて日本の精神医療保健福祉の課題について考察する。

福祉政策特論 担当：平野 寛弥

日本の福祉政策について、「社会的シティズンシップ」の観点から批判的に検討する。具体的には、さまざまなトピックを取り上げながら、「共生」や「包摂」を理念に掲げる日本の福祉政策の到達点と課題を考察する。

地域福祉特論

構造改革や地方分権推進による行政権限の地方への委譲と、市町村における地域福祉施策の実際を学ぶ。また、地域福祉の基盤整備に不可欠な人材、環境などの地域資源について分析し、今後の地域福祉政策の展開を論じる。

公的扶助論 担当：六波羅 詩朗

公的扶助論は、制度的な側面と対象となる生活困窮者の生活の問題を含んでいる科目である。このことは、貧困という概念だけではなく「生活困窮」そのものを社会的にどのように理解するかであり、これを基本に研究する。

福祉経営特論 担当：綿 祐二

福祉経営をマネジメントとアドミニストレーションの両面より探究していく。福祉現場における「理論と実践の融合」のできる専門職養成や組織論と経営戦略論の視点から労務、財務における人材育成について事例を交えて論じていく。

(2024年度実施内容。2025年度には一部変更の可能性あります)

▶ 保育・発達支援関連科目

現代保育特論 担当：松永 愛子

現代社会において保育施設に求められている機能や背景を概観し、制度の枠組みを超えて重要と考えられる幼児理解を基にした遊びの質・保育の質の確保について、意義や方法を考える。

保育ニーズ特論 担当：原 孝成

子ども・子育て新制度がスタートし、多様な保育ニーズが求められる保育現場の現状とそこで求められる専門性とは何かについて論考するとともに、実践事例の検討などを通して議論を深めていく。

子育て支援特論

急激な社会変動によって、子育てが私的営みから社会的支援事業の対象へと変化しつつある。そのような現状を前提に、健全な親子関係や必要な組織づくり、人的資源活用などについて研究する。

スクールソーシャルワーク特論 担当：岩田 美香

スクールソーシャルワーカー導入の背景として、学校現場と教育制度、また支援の対象となる児童生徒と家族を理解する。その上で、学校におけるソーシャルワーク実践と展開について、事例検討も含め考察する。

発達・家族心理学特論

担当：小野寺 敦子（心理学研究科 現代心理学専攻所属）
生涯発達の諸理論に対する理解を深め、各発達段階で重要なテーマとなる研究論文を読み進める。さらに、家族・親子や夫婦関係の諸問題、介護をめぐる家族や障がい者の家族問題にも焦点を当てる。

障害児福祉特論 担当：山崎 順子

子どもは、家族や地域社会との関わりの中で成長・発達する。本講義では、特に子どもの育ちと家族の関係のあり様に主眼を置きながら、さらに社会資源・支援との関係を考慮に入れ、ソーシャルワークの視点より考察していく。

▶ 倫理・権利関連科目

生命倫理特論 担当：石川 正憲

近年、医学の進歩に伴い、「ヒトの死」や「ヒトの生」に対して、医学が介入し始めた。しかし、それによって、医学だけでは解決できない多くの生命倫理の問題が浮き彫りとなった。授業では、そうした生命倫理の問題を、一つひとつ学習することとする。

権利擁護特論 担当：飯村 史恵

日本では、社会福祉基礎構造改革以降、制度・政策レベルでも「権利擁護」が語られるようになってきたが、数多くの課題が指摘されている。本講義では、多角的視点から、ソーシャルワークの基盤をなす人権と社会正義について考える。

▶ 演習科目

生涯福祉演習Ⅰ 担当：原 孝成

質的調査や質的データ分析方法について基本的学習を行い、質的研究に関わる論文を購読し、質的研究の研究対象や、調査方法、分析方法の適応方法について理解を深めることを目的とする。

生涯福祉演習Ⅱ 担当：姜 恩和

子ども家庭福祉制度、サービス体系についての学びを土台としつつ、受講生の関心に合わせてフィールドにふれる機会を持ち、実践例を取り上げて多角的な視点で支援策を検討する。

生涯福祉演習Ⅲ

研究論文における社会福祉研究の調査法について、演習形式で吟味しながら、実際の研究に即した形で理解する。研究テーマに関連した学術誌の掲載論文を教材として、調査法を修得する。

ハイブリッド型授業の実施

本学では、対面・遠隔を併用したハイブリッド型で授業を実施しています。

生涯福祉演習Ⅳ 担当：井上 牧子

欧米の先駆的実践例を参考に、ソーシャルワークの新しい理論を学ぶ。同時に我が国におけるソーシャルワークの具体的実践例と比較検討し、我が国の状況に応じた支援活動への考察を深める。

生涯福祉演習Ⅴ 担当：村田 久

社会福祉調査の方法や分析に関する知識を高め、社会福祉調査を理解・分析し、実際に調査を担える能力を身につけることを目的とする。社会福祉調査法について体系的に学び、社会福祉調査を行う上での量的調査と質的調査の活用方法を修得する。

▶ 特別研究

特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

研究課題の設定から論文の執筆、資料収集や調査内容の整理方法など、2年間を通して修士論文の作成を一貫指導する。個別の指導教員のほか、構想（デザイン発表Ⅰ・Ⅱ）や中間発表を通じ複数の教員が集団指導を行う。

カリキュラム（修了要件：30単位以上）

	科目名	単位数		配当年次
		必修	選択	
基幹科目	生涯福祉総論Ⅰ	2		1
	生涯福祉総論Ⅱ	2		1
	ソーシャルワーク論	2		1
	福祉臨床論	2		1
福祉関連科目	子ども家庭福祉特論		2	1・2
	高齢者福祉特論		2	1・2
	障害者福祉特論		2	1・2
	精神保健福祉特論		2	1・2
	福祉政策特論	2		1・2
	地域福祉特論	2		1・2
	公的扶助論	2		1・2
	福祉経営特論	2		1・2
	現代保育特論	2		1・2
	保育ニーズ特論	2		1・2
保育・発達支援関連科目	子育て支援特論	2		1・2
	スクールソーシャルワーク特論	2		1・2
	発達・家族心理学特論	2		1・2
	障害児福祉特論	2		1・2
倫理権利関連科目	生命倫理特論	2		1・2
	権利擁護特論	2		1・2
演習科目	生涯福祉演習Ⅰ	2		1・2
	生涯福祉演習Ⅱ	2		1・2
	生涯福祉演習Ⅲ	2		1・2
	生涯福祉演習Ⅳ	2		1・2
	生涯福祉演習Ⅴ	2		1・2
特別研究	特別研究Ⅰ	1		1
	特別研究Ⅱ	1		1
	特別研究Ⅲ	1		2
	特別研究Ⅳ	1		2

履修スケジュール例（夜間・土曜講義受講を前提に履修する場合の1年次）

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	9:30 ～ 11:00	※平日第1～3時限は生涯福祉専攻の授業はありません。				1
2	11:10 ～ 12:40					2
3	13:30 ～ 15:00					3 ●生涯福祉総論Ⅰ
4	15:10 ～ 16:40					4 ●生涯福祉総論Ⅰ
5	16:50 ～ 18:20			生涯福祉演習Ⅱ		
夜1	18:30 ～ 20:00	ソーシャルワーク論	福祉臨床論	●生涯福祉総論Ⅱ		
夜2	20:10 ～ 21:40		特別研究Ⅰ			
		特別研究Ⅱ		●生涯福祉総論Ⅱ		

…春学期

…秋学期

●2時限続きで隔週授業